

2017年2月2日

2016年度第3四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q：中国で仲裁審理中の未回収の売上債権について引き当てを行うタイミングについての考え方を教えてください。

A：まず基本的には債権回収に全力を挙げる方針です。会計上の手当てについては適切な時期と金額について監査法人と継続的に議論を重ねておりますが、これまでのところ審理についても大きな変化点がないため、第3四半期決算は従来どおりの方針で行っております。今後について現段階で決定していることはございませんが、当初想定よりも長期化していることもあり、総合的に判断をした上で必要に応じた適切な開示を行ってまいります。

Q：ATM事業に関して中国以外は堅調というお話がありましたが、損益の前年対比の変化に関して日本、中国、ブラジルの3カ国に分けるとどのような貢献の変化がありますでしょうか。背景を含めてご説明をお願いします。

A：中国については昨年までの急激な普及の反動による踊り場という理解です。人口当たりの設置台数についてはATM先進国の半分程度だと思っておりますので、今後も地方部を中心に成長のチャンスがあると思っております。

ブラジルに関しましては、マクロの景況はまだ改善していませんが、売上高に関しては現地通貨ベースでは前年対比では増収になっています。損益は赤字でございますが前年対比では半減しています。底打ちが見えてきたと思っております。

日本でのATMは非常に安定的です。ATM以外では現金処理機が今年度は好調です。

Q：メカトロ事業のQ3累計をみますと収益性が昨年から比べると悪化しているように思えます。この要因について教えてください。

A：主に中国での物量減影響に加えて、在庫水準の適正化を目的とした生産量の調整を行っております。操業の減少による固定費の未吸収の影響が大きいという状況です。それから価格の下落の影響があります。販売数量、価格、操業の3点が要因となります。

Q：為替影響を軽減するために外貨建て取引を一部見直しと説明がありましたが、為替感応度の方に変化はありますか。

A：一部の取引について通貨建ての見直しをして、債権債務のバランスを整合するような狙いの取り組みも行っております。その結果、営業利益への影響度についてはあまり変化がありませんが、営業外での為替影響を減少させるような効果がございます。

(注)本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。